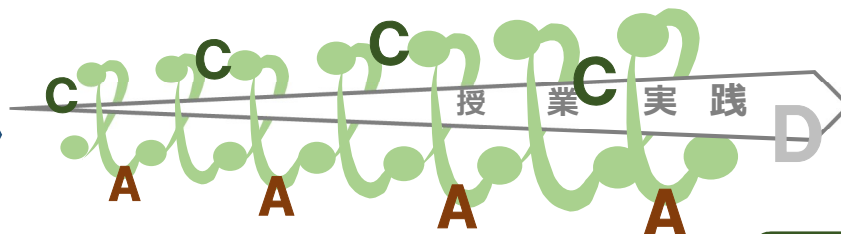


P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



Check 5

・「英語を使ってできるようになったこと」を自覚させているか

Check 4

・内容面と言語面の伸びを生み出す活動後半か

S: Hello. My name is Hida Taro in Takayama JHS. We want to tell you good food in Hida. Please give us time.

I think Hida beef is good because it's very delicious. Do you like beef? Hida beef is best beef in Japan I think. If you try Hida beef, it will be one of good memory for you.

Check 3

・内容の質を高める中間交流・指導になっているか

T(S)What is the goal? (目的に立ち返る) T(S)Why is Hida beef good? (内容を膨らませる)

T(S)Can foreigners eat beef? (場面、状況の確認)

Check 1

・目的や場面、状況等がある言語活動を設定しているか

「外国人に飛騨の魅力を伝えるのだな」

「飛騨ならではの食べ物や場所などを PR したいな。」

Check 2

・既習内容を想起させる活動前半であるか

S1:I think Hida beef is good.

S2:Nice. I think Gasyo style house is good.

A 授業改善のポイント

Check 1

目的や場面、状況等がある自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の設定 (内容が先、英語が後)

「飛騨の魅力を PR する」⇒目的を加えましょう。

「不定詞を使って、飛騨の魅力を PR する」⇒言語材料はあくまでコミュニケーションを支えるものであり、伝える内容を重視しましょう。

<一例>

目的: 飛騨の魅力を世界に広めるために

場面: 高山市内研修での外国人へのインタビューの場面で

状況: 観光客に飛騨の魅力を PR する

◆生徒の意欲や主体性を生み出します。

Check 2

既習内容を想起させる活動前半 (活動が先、指導が後)

・J T E (教科担任等) と A L T と生徒とのやり取りを通して、本時の活動の目的や目指す姿を明らかにします。生徒を巻き込みながら、やり取りすることが大切です。

・最初に指導するのではなく、まずは言語活動に取り組ませ、その後生徒の学習状況を見届け、必要に応じて指導します。

◆既習内容の想起や主体性につながります。

T:What is the good food in Hida?

S: Hida beef, Tsukemono steak, mameita, Sushi,

T: Nice. What is the good place in Hida?

S: Old town. Shirakawa-go, Gero spa, Furukawa station.

T: What are these things interesting for foreigners?

S: Hida beef, Old town and so on.

T: Let's tell good things of Hida to foreigners!

Check 3 (飛騨地区の重点)

内容の質を高める中間交流・指導

・前半の活動で把握した生徒のよさ (内容面や言語面) を共有したり、共通のつまづきや誤りを修正したりします。言語材料の定着や共通する誤りの修正だけでなく、内容面のよさや高まりに焦点をあてた交流・指導を行いましょう。

◆内容の質の高まりや正確さの向上につながります。

Check 4

内容面と言語面の伸びを生み出す活動後半

・「外国人にどんな飛騨の魅力を伝えることができたのか」という視点で指導と振り返りを行いましょう。(内容面)

・「外国人に飛騨の魅力を伝えるために、どの既習表現が使えるのか」という視点で指導と振り返りを行いましょう。(言語面)

◆英語で思考・判断・表現しながら知識・技能を身に付けていく授業の具体が実感できます。

Check 5

「英語を使ってできるようになったこと」の自覚

・Small Talk の継続や単元終末や学期のまとまりにおいて、目的や場面、状況等が明確なパフォーマンステストを行いましょう。(例) アメリカからの留学生に自分の学校生活を説明する

・単元終末や学期のまとまりにおいて、「英語を使ってできるようになったこと (学習到達目標・CAN-DO リスト)」を視点に振り返りましょう。

◆生徒の英語力の把握とコミュニケーションを図る (基礎となる) 資質・能力の育成につながります。

ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。

